

大学生と読書

—読書環境の変化 3—

University Students and Reading

—Changes in Reading Environment Part 3—

吉田 昭子

YOSHIDA Akiko

要旨

新型コロナウイルス感染症の感染拡大が始まってから、3年目を迎えようとしている。全国大学生生活協同組合連合会の「学生生活実態調査」によれば、コロナ禍の2020年に1日の読書時間がゼロ分の学生はいったん減少したが、2021年度の調査で再び増加に転じている。およそ半分の大学生が1日の読書時間がゼロ分で、読書をする学生としない学生の二極化が依然として存在している。本稿では大学生を対象に読書の楽しさ、読書時間の有無、読書に関わる交流、好きな作品、好きな作家、繰り返して読む本、読書のメリットについてのアンケートを実施し、読書を生活の中にどのように位置づけるかをとらえ直すことを試みた。読書のメリットについては、学生の自由記述をまとめたところ、次の4つに分類できた。①勉強・知識、②想像力・体験、③時間の過ごし方・楽しみ、④コミュニケーション・交流である。繰り返して読む本に関する調査では、自分にとって大切な1冊に出会い、見つけた体験を持つ学生は、作品の感想を共有し合うコミュニケーションを通して「味わう」までに高める力を獲得している。これにより、今後の研究の重要な基盤を得ることができた。

●キーワード：読書 (reading) / 大学生 (university students) / 読書の楽しみ (pleasure of reading)

I. コロナ禍の大学生の読書状況

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の発生が伝えられたのは、2019年12月のことであった。世界的な規模の感染拡大が続き、不要不急の外出自粛や三密を避けて感染拡大を防止することが求められた。この3年間に、新規感染者の増大と減少が繰り返されてきた。2022年11月に入り、第7波が下げ止まらない中で、それを上回る第8波流行の心配が指摘されている¹⁾。

新型コロナウイルス感染症の拡大当初は、急遽オンライン授業の方法を検討し、実施した大学が多く見られた。その後、地域による感染状況を考慮し、対面授業とオンライン授業をあわせたハイブリッド形式の授業が実施された。2022年度に入り、感染拡大の防止に充分配慮しながら、多くの大学が各大学の授業実施方針に沿って授業を展開している²⁾。3年間も続くと、非日常ではなく日常化している気配も感じる。

全国大学生生活協同組合連合会が毎年10月から11月に実施している「学生生活実態調査」によると、大学生の読書状況は次のように推移している。新型コロナウイルス感染拡大以前の2019年に実施された第55回調査³⁾では、

1日の読書時間が0分の学生は48.1%だったが、コロナ禍の2020年に実施した第56回調査⁴⁾は47.2%に減少した。しかし、ワクチン等の新型コロナウイルスに対する対応が整い始めた2021年の第57回調査⁵⁾では、読書時間0分の学生は再び増加し、50.5%になった。これは、半分の学生は1日の読書時間がないということを示している。1日の平均読書時間は、第55回 (2019年) が30分、第56回 (2020年) が32.1分、第57回 (2021年) が28.4分である。つまり、コロナ禍の2020年に一旦増加した読書時間は、再び減少しているのである。

筆者が授業を担当している東京都内の私立大学生2年生から4年生の64名の学生に、2022年7月の時点で、コロナ禍に読書時間の変化があったか否かを質問紙を用いて調査を行った。結果は次のようであった。コロナ禍で、①読書時間が増加した24人 (37.5%)、②読書時間に特に変化はない33人 (51.6%)、③読書時間が減少した7名 (10.9%) であった。そして、変化はないという回答が多くを占めた。

2020年はコロナ禍の外出自粛要請を受けて自分で使える空き時間が増え、一旦読書時間が増えて1か月に1冊

も本を読まない学生の割合も減少した。自粛が解除されて社会が次第に日常を取り戻す中で、対面形式の授業が増加すると、1日の読書時間が0分の学生も再び増え始めたと推測できるのだろうか。コロナウイルスで実際どのような状況が生じたのかは明らかにはなっていない。新型コロナウイルス感染症の収束が見込めない状況で、コロナ禍の大学生の読書状況について実際に調査してみる必要があると考えた。

そこで、ここでは筆者が担当する文化学園大学の授業を履修している学生に対して、読書の楽しさ、好きな作品、好きな作家、よく繰り返して読んでいる本等について行ったアンケートを基にコロナ禍の学生の読書の現状を明らかにする。

II. 読書状況についてのアンケート結果

2. 1 アンケートの対象と実施時期

文化学園大学では、2022年4月から対面形式を中心とした授業を展開しており、新型コロナウイルスに感染したり、濃厚接触者として対面授業の受講が難しい学生の場合は、ハイブリッド授業を行っている。アンケートは後期授業の初め、筆者が担当する10月の授業で実施した。

筆者が担当する文化学園大学国際学部の後期授業の中で、日本語文章作成演習Ⅱを履修している大学1年生51名と司書課程の授業を履修している2年次から4年次の学生のうちの26名、合計77名を対象として質問紙によるアンケートを実施した。

2. 2 アンケートの質問内容と選択肢

読書に関するアンケートの質問内容と選択肢は次のとおりである。問1から問6は選択肢から回答させ、問7から問10は自由記述の形式をとった。

問1 読書は楽しいか

1. 楽しい 2. どちらかという楽しい 3. どちらかという楽しくない 4. 楽しくない

問2 大学生になってから、読書をする時間はあるか

1. ある 2. ときどきある 3. あまりない 4. ない

問3 子どもの頃（幼稚園や小学校の頃）には読書をする時間はあったか

1. ある 2. ときどきある 3. あまりない 4. ない

問4 本の話を読んだことはあるか

1. ある 2. ときどきある 3. あまりない 4. ない

問5 誰と本の話をするか（複数選択可）

1. 友達 2. 家族 3. そのほか() 4. 誰もいない
問6 誰かに本を勧めたり、本を貸すたりすることはあるか（複数選択）

1. ある 2. ときどきある 3. あまりない 4. ない

問7 他の人と本の話をするときは、どんなジャンルの本の話が多いか（自由記述）

問8 好きな作品、好きな作家はいるか（自由記述）

問9 これまで2回以上繰り返して読んだことがある本はあるか。何回くらいか、どんな本か。（自由記述）

問10 自分自身の経験から、読書のメリットはどんなことだと思うか。（自由記述）

2. 3 アンケートの結果

2. 3. 1 読書の楽しさ

問1では読書することを楽しいと思うかという質問を行った。第1表に司書課程の学生と司書課程以外の大学1年生の回答結果を示した。()内はそれぞれの割合を示している。司書課程の学生の7割以上が「楽しい」と回答している。「楽しい」と「どちらかという楽しい」の合計は学生全体の9割をしめる。

第1表 読書は楽しいか

選択肢	司書課程の学生人数	司書課程以外の学生人数	合計人数
1 楽しい	19 (73.1%)	22 (43.1%)	41 (53.2%)
2 どちらかという楽しい	7 (26.9%)	22 (43.1%)	29 (37.7%)
3 どちらかという楽しくない	0 (0%)	4 (7.8%)	4 (5.2%)
4 楽しくない	0 (0%)	3 (5.9%)	3 (3.9%)
合計	26 (100%)	51 (100%)	77 (100%)

2. 3. 2 読書時間の有無

問2では大学生になってから、読書をする時間があるかどうかをたずねた。第2表に示したように、司書課程の学生は「ない」と答えた学生はいない。6割が「あまりない」と回答している。司書課程以外の学生は3割弱が「ない」と回答しているが、「あまりない」と「ない」をあわせると、6割強の学生が読書時間は「ない」と答えている。

第2表 大学生になってからの読書時間

選択肢	司書課程の学生人数	司書課程以外の学生人数	合計人数
1 ある	5 (19.2%)	5 (9.8%)	10 (13.0%)
2 ときどきある	5 (19.2%)	12 (23.5%)	17 (22.0%)
3 あまりない	16 (61.5%)	20 (39.2%)	36 (46.8%)
4 ない	0 (0%)	14 (27.5%)	14 (18.2%)
合計	26 (100%)	51 (100%)	77 (100%)

問3では子どもの頃（幼稚園や小学校の頃）の読書時間をたずねた。その結果が第3表である。

第3表 子どもの頃の読書時間

選択肢	司書課程の学生	司書課程以外の学生	合計
1 ある	23 (88.5%)	39 (76.5%)	62 (80.5%)
2 ときどきある	2 (7.7%)	9 (17.6%)	11 (14.3%)
3 あまりない	0	2 (3.9%)	2 (2.6%)
4 ない	1 (3.8%)	1 (2.0%)	2 (2.6%)
合計	26 (100%)	51 (100%)	77 (100%)

2.3.3 読書に関わる交流

問4から問6では本による他者との交流をとりあげた。問4では「本の話を読かすことができるか」、問5では「誰と本の話をするか」（複数選択可）、さらに、問6では「誰かに本を勧めたり、本を貸したりすることができるか」をたずねた。第4表から第6表にそれぞれの回答結果を示した。

第4表 本の話を読かすことができるか

選択肢	司書課程の学生	司書課程以外の学生	合計
1 ある	5 (19.2%)	5 (9.8%)	10 (13.0%)
2 ときどきある	9 (34.6%)	14 (27.5%)	23 (29.8%)
3 あまりない	10 (38.5%)	21 (41.1%)	31 (40.3%)
4 ない	2 (7.7%)	11 (21.6%)	13 (16.9%)
合計	26 (100%)	51 (100%)	77 (100%)

第5表 誰と本の話をするか

選択肢	司書課程の学生	司書課程以外の学生	合計
1 友達	23 (88.5%)	26 (51.0%)	49 (63.6%)
2 家族	10 (38.5%)	17 (33.3%)	27 (35.1%)
3 そのほか	2 (7.7%)	2 (3.9%)	4 (5.2%)
4 誰もいない	2 (7.7%)	13 (25.5%)	15 (19.5%)

そのほかとしては、司書課程の学生は図書室の司書、SNS上での知り合いを、司書課程以外の学生では、学校の先生をあげている。

第6表 本を勧めたり、貸すことができるか

選択肢	司書課程の学生	司書課程以外の学生	合計
1 ある	5 (19.2%)	8 (15.7%)	13 (16.9%)
2 ときどきある	8 (30.8%)	10 (19.6%)	18 (23.4%)
3 あまりない	12 (46.2%)	13 (25.5%)	25 (32.5%)
4 ない	1 (3.8%)	20 (39.2%)	21 (27.2%)
合計	26 (100%)	51 (100%)	77 (100%)

問7では「他の人と本の話をする際にどんなジャンルが多いか」を自由記述でたずねた。複数挙げられたジャンルを第7表に示した。小説全般を挙げている場合と、ミステリー小説、恋愛小説、推理小説などの特定の小説

を挙げている例がみられる。小説とそのほかの特定の小説もあわせると、6割強が小説で占められている。

第7表 他の人と本の話をする際に多く話すジャンル

選択肢	司書課程の学生	司書課程以外の学生	合計
小説	10 (38.5%)	7 (13.7%)	17 (22.1%)
ミステリー小説	4 (15.4%)	13 (25.5%)	17 (22.1%)
恋愛小説	2 (7.7%)	7 (13.7%)	9 (11.7%)
推理小説	1 (3.8%)	5 (9.8%)	6 (7.8%)
マンガ	2 (7.7%)	2 (3.9%)	4 (5.2%)
雑誌	2 (7.7%)	2 (3.9%)	4 (5.2%)
映画等の原作	1 (3.8%)	3 (5.9%)	4 (5.2%)

2.3.4 好きな作品・好きな作家

問8では自分の好きな作品、好きな作家についてたずねた。自由記述で挙げられた作品は第8表のとおりである。複数の学生があげた作品数は6点のみで、シリーズものや映像化されている『きみの友だち』や『余命10年』があげられている。

好きな作家は第9表のとおりである。最も多く取り上げられているのが、ミステリーや推理小説に対する人気が高く、東野圭吾が最も多く取り上げられている。

第8表 好きな作品

好きな作品	人数	全体77人に占める割合
ハリーポッター (J・Kローリング)	6	7.8%
きみの友だち (重松清)	2	2.6%
桜のような僕の恋人 (宇山佳佑)	2	2.6%
シャーロックホームズシリーズ (コナン・ドイル)	2	2.6%
また同じ夢を見ていた (住野よる)	2	2.6%
余命10年 (小坂流加)	2	2.6%
あかんべえ (宮部みゆき)	1	1.3%
明け方の若者たち (カツセマサヒコ)	1	1.3%
アラレン戦記シリーズ (ジョン・フラナガン)	1	1.3%
いじめっこには報復を (斬)	1	1.3%
一瞬の風になれ (佐藤多佳子)	1	1.3%
兎の眼 (灰谷健次郎)	1	1.3%
宇宙の秘密の鍵シリーズ (スティーブン・ホーキング)	1	1.3%
海底2万里 (ジュール・ヴェルヌ)	1	1.3%
鏡 (星新一)	1	1.3%
キノの旅 (時雨沢恵一)	1	1.3%
ケーキ王子の名推理 (七月隆文)	1	1.3%
コーヒーが冷めないうちに (川口俊和)	1	1.3%
コスメの王様 (高殿円)	1	1.3%
この恋は世界でいちばん美しい雨 (宇山佳佑)	1	1.3%
砂糖菓子の弾丸は撃ち抜けない (桜庭一樹)	1	1.3%
地獄堂霊界通信 (香月日輪)	1	1.3%
試着室で思い出したら、本気の恋だと思っ	1	1.3%
11びきのねこ (馬場のぼる)	1	1.3%
十字架 (重松清)	1	1.3%
少年探偵団 (江戸川乱歩)	1	1.3%
白雪姫 (グリム)	1	1.3%
スマホを落としただけなのに (志駕晃)	1	1.3%
晴天の迷いクジラ (窪美澄)	1	1.3%

ちぐはぐな身体 (鷲田清一)	1	1.3%
D坂の殺人事件 (江戸川乱歩)	1	1.3%
ディズニーサービスの神様が教えてくれたこと	1	1.3%
西の魔女が死んだ (梨木香歩)	1	1.3%
20代で得た知見 (F)	1	1.3%
人魚姫 (アンデルセン)	1	1.3%
阪急電車 (有川浩)	1	1.3%
ひだまりの詩 (乙一)	1	1.3%
陽だまりの樹 (手塚治虫)	1	1.3%
ブレイブ・ストーリー (宮部みゆき)	1	1.3%
僕らのご飯は明日で待ってる (瀬尾まいこ)	1	1.3%
本を守ろうとする猫の話 (夏川草介)	1	1.3%
真夜中乙女戦争 (F)	1	1.3%
密室殺人ゲーム (歌野晶午)	1	1.3%
モモ (ミヒヤエル・エンデ)	1	1.3%
妖怪アパートの幽雅な日常 (香月日輪)	1	1.3%
夜が明けたらいちばんに君に会いに行くよ (汐見夏衛)	1	1.3%

第9表 好きな作家

好きな作家	人数	全体(77人)に占める割合
東野圭吾	7	9.1%
住野よる	3	3.9%
江國香織	2	2.6%
知念実希人	2	2.6%
星新一	2	2.6%
湊かなえ	2	2.6%
青柳碧人	1	1.3%
赤川次郎	1	1.3%
朝井リョウ	1	1.3%
有川浩	1	1.3%
伊坂幸太郎	1	1.3%
上橋菜穂子	1	1.3%
江戸川乱歩	1	1.3%
乙一	1	1.3%
カズオ・イシグロ	1	1.3%
カツセマサヒコ	1	1.3%
グリム兄弟	1	1.3%
河野裕	1	1.3%
白川紺子	1	1.3%
張愛玲	1	1.3%
中山可穂	1	1.3%
七月隆文	1	1.3%
馬場のぼる	1	1.3%
宮部みゆき	1	1.3%
薬丸岳	1	1.3%
柚木麻子	1	1.3%
吉本ばなな	1	1.3%
綿矢りさ	1	1.3%

2.3.5 繰り返して何度も読む本

問9では、これまで2回以上繰り返して読んだことがある本はあるか、何回くらい読んだか、どのような本かをたずねた。結果は第10表、第11表のとおりである。2回、3回繰り返して読む学生が最も多く、気に入りの本は繰り返して読む。子どもの頃は何度も繰り返して読んでいたので、数えきれないという回答も見られた。

第10表 何回くらい繰り返して読むか

繰り返して読む回数	人数	全体(77人)に占める割合
2回	11	14.3%
3回	12	15.6%
4回以上	5	6.5%
5回	7	9.1%
6回	1	1.3%
7回	1	1.3%
8回	1	1.3%
10回以上	4	5.2%
20回	1	1.3%
100回以上	1	1.3%
くり返して読む数えきれない	2	2.6%
合計	46	59.7%

複数の学生がとりあげた作品は『星の王子さま』『ハリーポッターシリーズ』のみで、それ以外は別々の作品を選んでいった。それぞれの学生が、自分にとって忘れられない1冊を持っている。『秘密の花園』については、「小学校の時から、必ず1年に1回は必ず読み返している。やさしくて暖かい作品で、忘れられない大切な1冊である」という回答が見られた。

複数回読み直す理由は、推理小説のように先が知りたくて、急いで読み飛ばしてしまった内容を見直しながらかんだり、文章を味わいながら読む。結末を知って読み直すと最初読んだときには気づかなかったことを発見することがあるなどの指摘があった。また、『斜陽』や『人間失格』のような1度読んだだけでは理解しにくい難しい内容の場合は、さらに細かい点を調べたり、確認しながら読むことが多いという回答も見られた。

第11表 繰り返して読む作品

くりかえし読む作品	人数	全体(77人)に占める割合
星の王子さま (サンテグジュペリ)	4	5.2%
ハリーポッターシリーズ	2	2.6%

青い鳥 (重松清)	1	1.3%
赤毛のアン (L・M モンゴメリ)	1	1.3%
あかんべえ (宮部みゆき)	1	1.3%
アラレン戦記 (ジョン・フラナガン)	1	1.3%
いじめっこには報復を (斬)	1	1.3%
イソップ物語 (イソップ)	1	1.3%
一瞬の風になれ (佐藤多佳子)	1	1.3%
失われる物語 (乙一)	1	1.3%
おいしいのぼうけん (ふるたたるひ)	1	1.3%
海底二万里 (ジュール・ヴェルヌ)	1	1.3%
かくしごと (久米田康治)	1	1.3%
感情教育 (中山可穂)	1	1.3%
キッチン (吉本ばなな)	1	1.3%
きつねとつる (イソップ)	1	1.3%
君の臓腑を食べたい (住野よる)	1	1.3%
さくらえび (さくらももこ)	1	1.3%
地獄堂霊界通信 (香月日輪)	1	1.3%
死にぞこないの青 (乙一)	1	1.3%
シャーロックホームズシリーズ (コナン・ドイル)	1	1.3%
斜陽 (太宰治)	1	1.3%
少年探偵団 (江戸川乱歩)	1	1.3%
すきまじかん (アンネ エルポー)	1	1.3%
たとえ声にならなくても君への思いを叫ぶ (小春りん)	1	1.3%
ちくはぐな身体 (鷺田清一)	1	1.3%
ツナグ (辻村深月)	1	1.3%
D坂の殺人事件 (江戸川乱歩)	1	1.3%
長くつ下のピッピ (アストリッド・リンドグレン)	1	1.3%
西の魔女が死んだ (梨木香歩)	1	1.3%
人魚姫 (アンデルセン)	1	1.3%
人間失格 (太宰治)	1	1.3%
猫背の王子 (中山可穂)	1	1.3%
ハイキュー!! (古館春一)	1	1.3%
陽だまりの樹 (手塚治虫)	1	1.3%
秘密の花園 (フランシス・ホジソン・バーネット)	1	1.3%
復讐専用ダイヤル (赤川次郎)	1	1.3%
ブレイブ・ストーリー (宮部みゆき)	1	1.3%
ぼくは勉強ができない (山田詠美)	1	1.3%
僕らのご飯は明日で待ってる (瀬尾まいこ)	1	1.3%
マジックツリーハウス (メアリー・ポー・オズボーン)	1	1.3%
また同じ夢を見ていた (住野よる)	1	1.3%
密室殺人ゲーム 王手飛車とり (歌野晶午)	1	1.3%
モモ (ミヒャエル・エンデ)	1	1.3%
妖怪アパートの幽雅な日常シリーズ (香月日輪)	1	1.3%
夜が明けたらいちばんに君に会いに行くよ (汐見夏衛)	1	1.3%
ONE PIECE (尾田栄一郎)	1	1.3%

第12表 メリット ①勉強・知識

メリット	司書課程の学生	司書課程以外の学生	合計	全体 (77人) 中の割合
①勉強・知識				
知識が増える	5	9	14	18.2%
語彙力がつく	4	9	13	16.9%
文字の表現力が豊かになる	3	3	6	7.8%
漢字に強くなる	3	3	6	7.8%
読解力が身につく	2	3	5	6.5%
文字を読む速度が速くなる	1	3	4	5.2%
文章を書くときの参考になる	0	1	1	1.3%
国語力が高まる	1	0	1	1.3%
歴史を学ぶことができる	0	1	1	1.3%
翻訳書を原文で読むと語学の勉強になる	1	0	1	1.3%
教養や常識が身につく	0	1	1	1.3%
①合計	20	33	53	

第13表 メリット ②想像力・体験

②想像力・体験	司書課程の学生	司書課程以外の学生	合計	全体 (77人) 中の割合
想像力が豊かになる	5	11	16	20.8%
人生や考え方を学び、視野が広がる	4	4	8	10.4%
他の人の体験を疑似体験できる	2	6	8	10.4%
現実逃避ができる	4	1	5	6.5%
価値観が変わる	1	2	3	3.9%
感受性が豊かになる	2	0	2	2.6%
読後の満足感が得られる	0	1	1	1.3%
人生が変わる	1	0	1	1.3%
新しいアイディアが生まれる	1	0	1	1.3%
②合計	20	25	45	

第14表 メリット ③時間の過ごし方・楽しみ

③時間の過ごし方・楽しみ	司書課程の学生	司書課程以外の学生	合計	全体 (77人) 中の割合
集中し夢中になることができる	4	3	7	9.1%
ワクワクして楽しい	0	6	6	7.8%
心が落ち着く	2	4	6	7.8%
非日常なことを楽しめる	2	2	4	5.2%
ストレス発散	0	1	1	1.3%
時間を有意義に使える	0	1	1	1.3%
ケータイ、SNSから離れる時間を作ることができる	0	1	1	1.3%
喜びや幸福感が得られる	1	0	1	1.3%
気分転換、息抜きになる	1	0	1	1.3%
③合計	10	18	28	

第15表 メリット ④コミュニケーション・交流

④コミュニケーション・交流	司書課程の学生	司書課程以外の学生	合計	全体 (77人) 中の割合
他の人の気持ちに共感できるようになる	0	4	4	5.2%
会話のきっかけやネタになる	0	2	2	2.6%
話し方が上手になる	1	0	1	1.3%
幅広い世代の人と話すきっかけになる	1	0	1	1.3%
④合計	2	6	8	

Ⅲ. 考察と今後の課題

読書する学生と読書をしない学生の二極化は依然として存在している。それは読書が楽しい学生と楽しくない学生の二極化であり、読書時間のある学生とない学生の二極化でもある。子ども（幼稚園や小学校）の頃には単純な読書時間の有無だけではなく、それを支える読み聞かせや図書の日時等の時と場があり、家庭や園や学校で親や先生、友達とのふれあいの場が設定されていたりす

2. 3. 6 読書のメリット

問10では、自分の経験から読書のメリットはどのようなことだと考えるかを自由記述形式でたずねた。得られた回答をまとめたところ、4グループ（①勉強・知識、②想像力・体験、③時間の過ごし方・楽しみ、④コミュニケーション・交流）にわけることができた。その結果を第12表から第15表に示した。

る。読書を生活の中にどのように位置づけるかをもう一度真剣にとらえ直してみる必要がある。

読書のメリットはなにかと考えるとき、キーワードは常に「読書の楽しみ」に存在するのではないだろうか。「想像力・体験」から生まれる新たなチャレンジ、「時間の過ごし方・楽しみ」が集中、夢中、ワクワクの気分を創出し、「コミュニケーション・交流」が共感しあい、幅広い世代の人々との交流へとつながる。

今回の学生に対するアンケート調査を通して、身近な学生たちの声の中にもこそ、読書を生活の中に位置づけるための大きなヒントが隠されていることに改めて驚いた。学生1人1人が自分なりの読書への熱い思いを持っている。

- ・自分には小学生の時に会った大切な本がある。それは、『秘密の花園』である。この本を1年に1回は必ず読んでいます。やさしくて暖かい本だからだ。
- ・原作は漫画だが、小説化されたり、映画化される作品が増えている。小説が好きの人、小説が得意ではない人、漫画が好きの人、漫画が嫌いな人、いろいろな人がいる。読書が苦手だった自分は、好きな漫画から始めて映画、小説を読むようになった。そして、苦手な読書を克服する自分なりのヒントに気づいた。それは、無理をしないで自分に合ったやり方で読み続けることだ。
- ・電子書籍を初めて使ったときに、こんなに便利なものがあるのに驚いた。電子書籍も読むが、それでも紙の本の方が好きだ。ページをめくると、次にどんなことが書かれているのか、どんな展開が待ち受けているのか、ワクワクする。図書館で本を借りた時に手揚げに本を入れる瞬間は、電子書籍では味わえない喜びだ。
- ・子どものころ、祖母の影響でラジオの朗読を聞くようになった。祖母が録音していたので、遊びに行ったときに一緒に聴くのが楽しみだった。今では自分のおすすめの本を祖父母に紹介するようになった。昔読んだことがある本を何年か経って読み返すと考え方が変わることがあるように、読んでいるときの年齢や環境などで作品の感じ方が変わることも読書の面白いところだ。本を読むことを通して学んだ知識や価値観は、今後生きていく中で自分の強みになると思う。
- ・祖父は小説を読むことが好きで、いつも図書カードをくれる。小学生の頃には、朝読書があって沢山本を借りた人は表彰されるイベントがあった。それでも、自

分は本を読むことが好きではなかった。高校生になってからは朝読書がなくなり、さらに本を読まなくなった。その代わりに漫画や雑誌を読むようになった。大学生になってから、小説を1冊だけ買った。それは、好きなアイドルがその小説の実写版映画の主演を務めたからだ。

- ・1冊の漫画を読んで、自分は2つのことを学んだ。1つ目は、1つのことに集中する事、続けること、あきらめない事。2つ目は自らアクションを起こす事である。自分から声を上げることは簡単ではないが、夢のかなえるためには大切だということがわかった。漫画はあまり良いものとされていないが、漫画から学ぶことは沢山ある。一番魅力的なのは、読んでいて動きがあることである。漫画は絵本の大人版だと思う。
- ・小さいころから本を読むことがとても嫌いだった。ページをめくっても、めくっても文字がずらっと並んでいる本に魅力を感じることができなかった。逆に本を読むことが大好きな姉のことを不思議に感じていた。初めて読んだ絵本、小学校の頃に貸してもらった姉の本、高校で出会った友達と訪れた図書館で出会った本、母や姉、友達など様々な人々がかかわっている。

自分だけの「推し」の本を見つけた体験をしている学生は、作品の感想を共有し合うコミュニケーションを通して「味わう」にまで高める力を持つ。本は読んで終わりではなく、誰かの心にずっと残るということは、何度も読み返す本との出会いになる。個々人の交流の新たな輪を広げる原動力といってもよいのではないだろうか。

今、図書館や書店で読書離れに対応した新たな先進的な取り組みが行われている。2022年7月に開館した石川県立図書館では、2022年11月に「秋の選書祭 100万冊の中からあなたにピッタリの本を5冊見つけます！」というサービスが展開されている。読みたい本が見つからない、読書をしたが何から読めば良いかわからない人のために本との出会いを創出し、図書館が積極的に利用者の「読書の楽しみ」を発見する手助けをする取り組みである⁶⁾。また、紀伊国屋書店は2027年までに現在68ある国内店舗を100店に拡大するという。その背景には若い世代の国語力の低下や大学生の読書時間の減少に対する危機感があるという⁷⁾。

今回は自分の体験から考えた読書のメリットを大学生にたずねた。その結果、1人1人が思いがけない工夫やユニークな取り組みをしていることが分かった。アン

ケートでは多くの学生が読書は楽しいと回答しているにも関わらず、読書が苦手という学生も多い。読書を苦手にさせるものは何か、読書のデメリットは果たして何かについても引き続き考えてみたい。

注・参考文献

- 1) 特設サイト新型コロナウイルス「第8波」への警戒
<https://www3.nhk.or.jp/news/special/coronavirus/eighthwave/> (2022-11-13参照)
- 2) 大学プレスセンター. 各大学の2022 (令和4) 年度授業実施方針について <https://www.u-presscenter.jp/article/post-47319.html> (2022-11-13参照)
- 3) 第55回学生生活実態調査概要3. 日常生活 (2) 読書時間
<https://www.univcoop.or.jp/press/life/report55.html> (2022-11-13参照)
- 4) 第56回学生生活実態調査概要報告3. 日常生活 (3) 読書時間・電子書籍
<https://www.univcoop.or.jp/press/life/report56.html> (2022-11-13参照)
- 5) 第57回学生生活実態調査概要報告3. 日常生活 (5) 読書時間・勉強時間
<https://www.univcoop.or.jp/press/life/report.html> (2022-11-13参照)
- 6) 石川県立図書館. 秋の選書祭 100万冊の中からあなたにピッタリの本を5冊見つけます!
<https://www.library.pref.ishikawa.lg.jp/category/event2022/2278.html> (2022-11-13参照)
- 7) “紀伊国屋書店：読書離れを防ぐ使命 紀伊国屋書店「店舗倍増計画」”. 毎日新聞2022年9月7日夕刊4頁.